

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko 国際文化研究専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

イタリア メローニ内閣が始動、女性・民間閣僚は減少

JETRO ビジネス短信 2022年10月26日

この号の内容

1 メローニ内閣が始動、
女性・民間閣僚は減少

2 EU 支部だより

- ・イタリア初の女性首相
- ・イタリアの同胞
- ・海洋・南部政策担当相
- ・企業・メイドインイタリア相



イタリア総選挙 右派が勝利



イタリアの同胞 (FDI) の党首ジョルジア・メローニ氏は 10 月 21 日、セルジオ・マッタレッラ大統領から、イタリア初の女性首相として指名を受けた。同日夜には関係閣僚が発表され、新たな政権が発足。翌 22 日には宣誓式が行われ、新内閣の船出となった。

イタリアでは 7 月 12 日に、連立主要政党の五つ星運動の離反を発端とし、マリオ・ドラギ政権が崩壊 (2022 年 8 月 1 日記事参照)。9 月 25 日の総選挙では中道右派連合が大きくリードし勝利をおさめた。右派内の得票格差が顕著となった (2022 年 9 月 27 日記事参照)。FDI が圧倒的に支持を集め、特に右派の一角である同盟 (Lega) が、地盤でもあるロンバルディア州など北部地域においても FDI の半数の支持率という結果となった。もともとは支持層が限定的だったメローニ氏が、Lega およびフォルツァ・イタリア (FI) との連携により全国的な支持を得たという背景もあり、メローニ氏が閣僚人事で各党のバランスをどうとるのが注目されていた。

民間・女性閣僚は減、政党色の強い内閣に

24 人の閣僚のうち、FDI からは 9 人、Lega および FI からはそれぞれ 5 人、政党に所属しない民間閣僚は 5 人選出された (添付資料表参照)。女性閣僚は、メローニ氏を除き 6 人が就任した。ドラギ政権では民間閣僚と女性閣僚はそれぞれ 8 人だった (2021 年 2 月 16 日記事参照)。

Lega のマッテオ・サルビーニ党首は、以前に経験のある内務相への再任を希望していると連日報道されていたが、インフラ相に起用。内務相には無所属のマッテオ・ピアンテドージ氏が就任した。サルビーニ氏は副首相も兼任する。

また、大きな焦点となっていた予算の鍵を握る経済・財務相については、ドラギ政権で経済開発相を務めたジャンカルロ・ジョルジエッティ氏 (Lega) を任命。イタリア銀行の総裁や欧州中央銀行 (ECB) の理事を務めた経験のあるファビオ・パネッタ氏らの名前が挙がっていたが、Lega の推薦が通った結果となった。外務・国際協力相は、当初から有力視されていたアントニオ・タヤーニ氏 (FI)。同氏は欧州議会議長の経歴を持ち、EU との調整役と期待されており、副首相も兼任する。また、選挙期間中から公約として挙げていた海洋相については、南部・国土統合担当相を引き継ぐかたちで、「海洋・南部政策担当相」として実現した。10 月 3 日付「コリエーレ・デラ・セーラ」紙によると、同省は港湾インフラを強化し、イタリアの地の利を生かした政策や、観光客誘致などを管轄する、と報じられている。また、経済開発相は改名され、「企業・メイドインイタリア相」となった。

イタリア産業連盟のカルロ・ポノーミ会長は、女性首相の誕生をたたえとともに、新政府に対してエネルギー問題への一刻も早い対応を要望した (ANSA 通信 10 月 22 日)。同氏は新内閣発表前に、右派連合の掲げている公約の 1 つであるフラットタックス制や早期退職制度に異を唱え、「次期政権はエネルギー危機からの、イタリアの産業システムの救済を最優先にすべき。一定の貧困層の救済のためのものを除き、資源をイタリアの根幹である産業に集中するべきだ」というコメントも出している (「ラ・レプブリカ」紙 10 月 3 日)。今後の調整がさらに注目される。

EU 支部だより -世界で働く女性首相-

- ・世界の女性首相 17 人
- ・ジェンダー平等の実現
- ・男女共同参画

イタリアでは初の女性首相が誕生しました。世界的にも「ジェンダー平等の実現」により「女性首相」の数も増えてきています。現在、世界の女性首相は 17 人。大統領、総統など国家元首まで含めると 33 人となりますが、中でも特に活躍がめざましい女性首相をご紹介します。

- ① ニュージーランドのジャンダ・アーダーン首相: 在籍中に産休を取得した初の政治家
- ② フィンランドのカトリーン・ヤコブスドットル首相: 男女同一賃金違反罰金の法律施行は世界初
- ③ デンマークのメッテ・フレデリクセン首相: 史上最年少で首相就任。ウクライナ危機に参加を決断
- ④ エストニアのカヤ・カラス首相: エストニア初の女性首相。デジタル化政策に注力
- ⑤ バングラデッシュのシェイク・ハシナ首相: 貧困撲滅による社会的公正の達成を心情に活動
- ⑥ セルビアのアナ・ブルナビッチ首相: 在任中同性パートナーが出産。保守的国家に新風

以上のように世界では多くの女性首相が活躍しています。日本では、直近に行われた衆議院選挙において女性の国会議員比率が 9.7% でした。これは OECD 加盟国中最下位です。女性の政治進出は男女共同参画の面からも重要な取り組みです。男性に媚びるのではなく、自分の意志と意見を持ち、その信念を貫く。そんな正義の女性政治家の活躍を期待するのは理想主義すぎるのでしょうか。(松原)

